

第4回 (仮称) 伊賀市観光振興ビジョン策定検討委員会
事項書

日時：令和3年10月7日(木) 9:00～

場所：ゆめテクノ伊賀 テクノホール

1. 開会
2. 第3回ディスカッションのまとめ
3. (仮称) 伊賀市観光振興ビジョンの構成について
4. 委員プレゼンテーション①
初恵美容室 松田 美紀 委員
5. 委員プレゼンテーション②
株式会社きねや 木根 英男 委員
6. その他

(仮称) 伊賀市観光振興ビジョン策定検討委員会 委員

#	枠	名前	ふりがな	所属	第4回 委員会	業種名	備考
1	1号 観光協会	木根 英男	きね ひでお	株式会社きねや	出席	飲食店	
2	1号 観光協会	浅野 正嗣	あさの まさし	伊賀の京丸屋	出席	小売業	
3	1号 商工会議所	山口 真由子	やまぐち まゆこ	ダーコラボラトリ	出席	専門・技術 サービス業	
4	1号 商工会議所	長島 祥行	ながしま よしゆき	株式会社ミヤマトータルイノベーション	出席	生活関連サー ビス業	
5	1号 商工会	柳生 厚義	やぎゆう あつよし	メナード青山リゾート	〇L	宿泊業	
6	1号 商工会	松田 美紀	まつだ みき	初恵美容室	出席	生活関連サー ビス業	
7	2号	三橋 源一	みつはし げんいち	共衛	〇L	宿泊業	三重大学大学院 人文社会科学 研究科 地域文化論専攻 忍 者・忍術学修士号
8	2号	榊 太基	さかき たいき	いが☆グリオ実行委員会	〇L	その他	シティプロモーション活動
9	3号	池澤 良武	いけざわ よしたけ	銭湯 池澤湯	欠席	生活関連サー ビス業	公募
10	3号	中川 智仁	なかがわ ともひと		〇L		公募
11	4号	神田 昌典	かんだ まさのり	株式会社三重旅行サービス	出席	生活関連サー ビス業	
12	4号	西川 裕介	にしかわ ひろすけ	株式会社NOTE 株式会社NOTE伊賀上野	〇L	宿泊業	NIPPONIA伊賀上野
13	4号	佐野 裕子	さの ゆうこ	日本航空株式会社	欠席	航空運輸業	忍びの里伊賀創生プロ ジェクト会議
14	4号	勝原 みどり	かつはら みどり	北伊勢上野信用金庫	出席	金融業	

(事務局)

	所属	役職	氏名	第4回 委員会	備考
1	伊賀市産業振興部 観光戦略課	課長	川部 千佳	出席	
2	伊賀市産業振興部 観光戦略課	誘客推進係長	辻本 康文	欠席	
3	伊賀市産業振興部 観光戦略課	誘客推進係	猪口 陽平	出席	
4	株式会社イマイシス		多久和 敦志	〇L	地域活性化起業人
5	株式会社キカクラブ		児島 永作	〇L	地域力創造アドバイザー

第3回テーマ「持続可能な地域づくり、旅住包摂の考え方について」

ねらい

循環型社会を実現するために、観光政策がどのように寄与できるのか。地域・事業者・旅行者が3方よしとなる関わり方はどのようなものか？それを実現するために必要な視点や取組は何か。

プレゼンター① 西川 裕介 委員（㈱NOTE伊賀上野）「歴史的資源を活用した観光まちづくり」

1. プレゼンテーションの視点

- ・ 保存と活用のバランス
- ・ まち歩き誘発
- ・ なつかしくて、新しい
- ・ 次の世代への継承

「歴史的建造物の保存・活用」を通じ「地域のプレーヤー」が「地域の資源に新しい価値づけ」を行い、地域のヒトモノカネの循環を促進させ、資源を「次の世代に引き継ぐ」ビジネスモデル。

2. ディスカッション内容まとめ

(ア) 地域の人との関わり方

- ① 特に時間や知識・技術のある方との連携（ボランティア活動など）
- ② お金をかけずに人を動かす方法
- ③ 市民の意識（危機意識）の醸成

(イ) 滞在時間の延伸・満足度の向上のために

- ① 必要なコンテンツ（伊賀に足りないもの）⇒夜間コンテンツ（バーなど）
- ② 移動手段（昼間は車移動が多い、夜にタクシーがない）

3. 事務局からの追加質問（NIPPONIA モデルを伊賀の観光全体に置き換えた場合）

(ア) 歴史的建造物の保存・活用を通じ

⇒ 歴史的建造物以外の伊賀の活用資源は？

- ・ 意見なし

(イ) 地域のプレーヤーが地域の資源に新しい価値づけを行い

⇒ 地域のプレーヤーをどう発掘・育成しますか？

- ・ 移住者なども含め間口を広く取って地元の受入体制を整える
- ・ 視点を下げて楽しいアイデアを広げる場所が必要

(ウ) 地域のヒトモノカネの循環を促進させ資源を次の世代に引き継ぐ

⇒ 次の世代への継承は誰がどのようにすべきでしょうか？

- ・ 良いものがあれば自然に引き継がれていく

プレゼンター② 三橋 源一 委員（共衛）「持続可能な地域づくり、旅住包摂について」

1. プレゼンテーションの視点

- ・ 観光客の志向の変化
- ・ 多様性・ 脱ビジネス志向
- ・ 「仕事」の延長線上に「稼ぎ」がある
- ・ 「頭脳・文章」ではなく「技能・作法」による伝承

2. ディスカッション内容まとめ

(ア) 「新しい観光」におけるコンテンツの提供方法

① サービス（価値）提供のあり方

- ・ 売り手視点か、買い手視点か
- ・ 労働体制

② 「生活の一部」としての提供（稼ぎと仕事の融合）

③ コンプライアンスの課題（旅行に求める安心・安全）エージェントの役割

(イ) エージェントの役割

① 地域の「言語化」

② コンプライアンス遵守「安全な旅行」

(ウ) メッセージの発信（共感）

① 地域住民への発信（誰が？）

② 共感できる旅行者への発信（どのように？）

共通する視点・課題

- ・ 地域課題解決の手段としての観光
 - 地域資源の保存や生活空間・環境の維持
 - 地域プレイヤー（事業者・住民）との連携
 - 地域振興とビジネスとのバランス

プレゼンター③ 多久和 敦志 アドバイザー（地域活性化起業人）「なぜ観光が必要か」（まとめ）

1. プレゼンテーションの視点

(ア) 観光は「目的」でなく相乗的に魅力をプラスする効果的「手段」

① 経済軸：直接消費、関節効果、付加価値効果、雇用効果、税収効果

⇒ 企業も地域との関わりを重視、魅力ない地域は企業誘致にも不利
地域と関わり深いツーリズムの需要増大

⇒ 伊賀のポテンシャルにより経済効果は伸びる可能性がある

② 市民軸：地域に魅力がないなら、市民の愛着・誇りは醸成されない

⇒ 他社から評価を得ることが市民を前向きにする最良の手段

③ 社会軸：移住者の約半数が観光時の印象で移住先を決定

⇒ 移住先として選ばれるためにも地域の魅力への共感が必要

(イ) 経済×シビックプライド×将来の定住で伊賀らしさを創出

- ・ 総合魅力度の向上が長期 K G I としてふさわしい
- ・ 「誰トク」を意識し総合的に魅力度を高上
- ・ 「三方よし」の観光循環イメージを三位一体で役割を担い取り組むことが必要

次回のテーマ

10年後の観光とそのための取り組み

これまでのプレゼンテーション、ディスカッションで見えてきた観光施策を進める意味や考え方をもとに、各委員が描く10年後「こうありたい」伊賀市の未来像とその理想にたどり着くために地域の一員としてまた市全体として取り組んでいきたいことは何か。

プレゼンター

- ① 松田 美紀 委員（初恵美容室）
- ② 木根 英男 委員（株式会社きねや）

(仮称) 伊賀市観光振興ビジョン

1. はじめに

1-1 観光振興ビジョン策定の背景と目的

第1回

1-2 伊賀市における観光振興とは (10年後どうありたいか?)

第4、5回

1-3 ビジョンの構成と期間

第1回

2. 伊賀市における観光振興の将来像

2-1 多様な価値観を包摂した持続可能な観光まちづくり

第3回

2-2 観光振興の将来像と現状のギャップ (現状はどうか?)

第4、5回

3. 観光振興策の推進にあたり

3-1 市民からの共感醸成

第2回

3-2 具体的な取り組み (どんな取組をしていくか?)

第4、5回

3-3 それぞれの役割

4. 参考資料

4-1 検討体制

4-2 検討経過

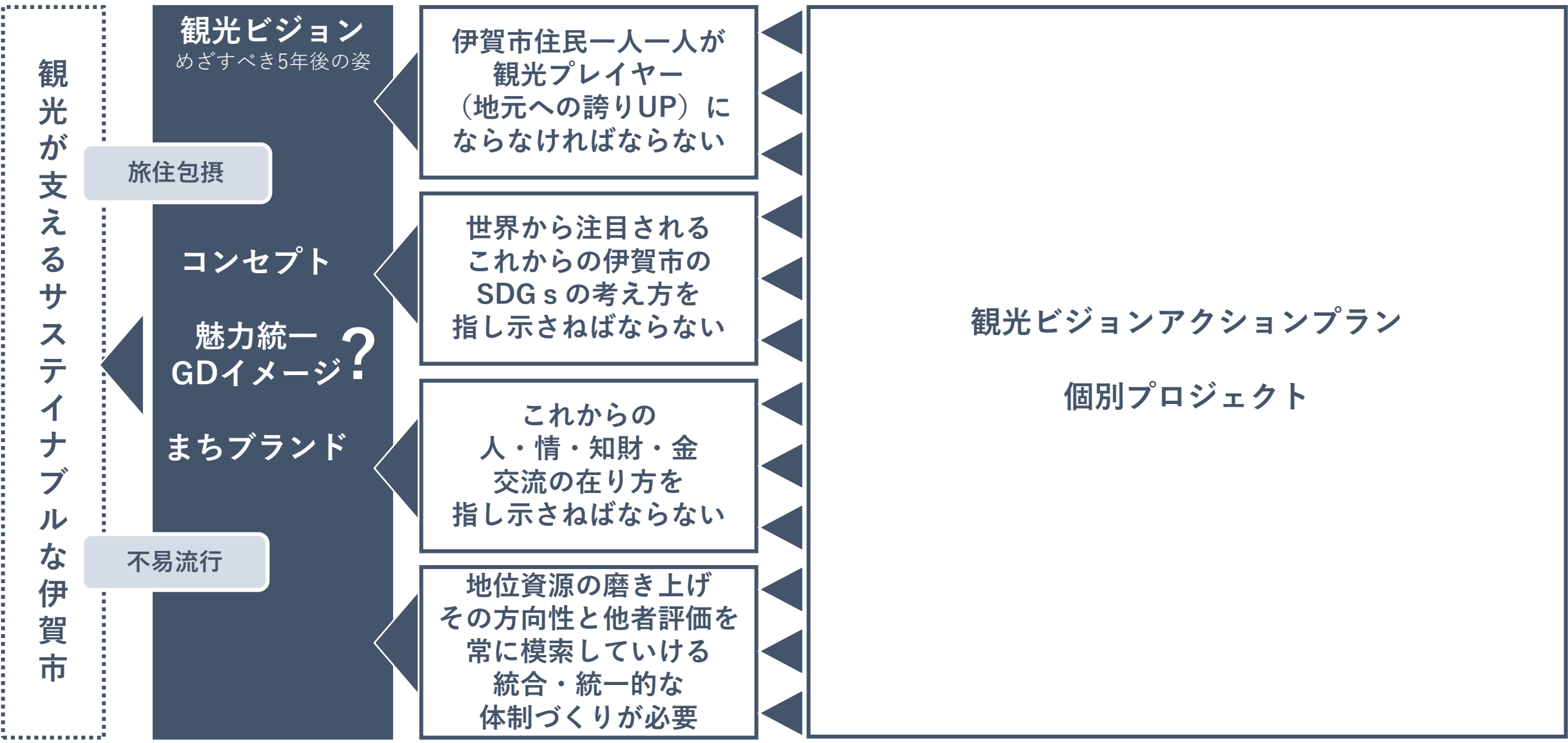
観光ビジョンのスコープ

Future
2031

Beyond
2025~

解決すべき課題
(観光ビジョン戦略方針・仮)

優先的に取り組むべき戦術課題



観光が支えるサステイナブルな伊賀市

	伊賀市として	自分として
10年後どうありたいか？		
現状はどうか？		
どんな取組をしていくか？		

5年後、10年後の伊賀市観光について

(仮称)伊賀市観光振興ビジョン策定検討委員会

初恵美容室 松田 美紀

私と伊賀市との関係

- 旧伊賀町の美容室の4代目
- 修行中は地域情報を収集しお客さんと情報交換
- 伊賀に帰ってきてから地元のスポットもあまり知らないことに気づく
- 現在は地元のおすすめ情報等を話せるように自分なりに調査
- 委員会に参加して地域で様々な取り組み、自分の知らない“いいところ”がたくさんあることに気づく

10年後の伊賀市、こうあってほしい

今の伊賀市は...

- “忍者”、“松尾芭蕉”以外に連想されるものが少ない
- その分野の人以外 “いいとこ・いいもの” がすぐ出てこない



市民が伊賀の今を知り、発信していける地域

- “伊賀のいいとこ・もの” に地元の方々が興味を持っている
- 知らない人にその良さ・魅力を伝えていける

そんな人がたくさん住んでいる地域であって欲しい！

伊賀市としての取り組みの方向性

①情報を分かりやすく伝える取組の強化

- SNS、ホームページ、紙媒体など情報を分かりやすく
- 市と市民の「ホウレンソウ(報告・連絡・相談)」ならぬ「カクレンボウ(確認・連絡・報告)」

②ターゲットを明確にしたエリア展開

- 城下町⇒観光客重視、白鳳通り⇒地域住民との交流の場

③地域のこどもたちへのアプローチ

- “地元・伊賀”を学ぶ教育機会を増やす

5年後、10年後の私

お客様に伊賀のことをなんでも話せる美容師

- 新しい取組、イベント、気になるスポットを巡り、伊賀の文化・魅力をもっと知っていく
- 市内外のお客様に伊賀のことを何でも話せるようになる

観光ビジョンに向けて

株式会社きねや 木根 英男

■当社について

株式会社きねや | Kineya Co., Ltd

創業 2011年（平成23年）2月3日

企業理念<PHILOSOPHY> 食をもっと楽しく、人生をもっと豊かに

きねやが関わるすべての人が、より豊かな人生を送れるよう より楽しい食環境、より上質な食を追及します。

ミッション<MISSION> 食とおもてなしで新たな価値を生みだし
世界に誇れる地域コンテンツを創る

今ある地域資源がそうであるように、今ある地域文化がそうであるように 今、ここから未来に向けて誇れるコトを創りたいと考えています。

事業内容 1. 食料品の製造販売 2. 食料品の宅配 3. 飲食店業

<http://www.Kineya-iga.com/> → 是非、一度ご覧ください。

■ 当社の取り組み

『西町や かかん』の運営

伊賀×場づくり ～伊賀を知って、感じて、食して、憩う～

観光に来られる方をおもてなしする場所であり、地元の方にも愛される場所。
「旅を、暮らしを豊かにする」そんな願いを込めて、築130年の町家を複合施設に。

- ・ 天ぷらそらや
- ・ HANAMORI COFFEES TAND
- ・ IGAMONOショップ
- ・ まちなか観光案内所
- ・ 忍者変身処
- ・ 体験道場





■ 10年後どうありたいか？

より大きく、強く、魅力ある組織になりたい

多様性 / 時間軸 / 社会貢献

子育て / 介護

ワークライフバランス /

サステイナブル / SDGs

■ どのような取り組みをしていくか？

より付加価値の高いサービスの提供

コラボ / 旅ナカ体験 / インバウンド

伊賀の街を十分に楽しむことができているか？

■伊賀市として

より包括的に観光をサポートする存在であってほしい

> 観光インフラの整備（アクセシビリティの向上）

駐車場 / 歩行者天国

ホップオン・ホップオフバス（乗り降り自由の周回バス）

> DX

> 地元企業が挑戦するプロジェクトへの投資

■ おわりに

伊賀は秘蔵の国